

今シーズンのインフルエンザの状況

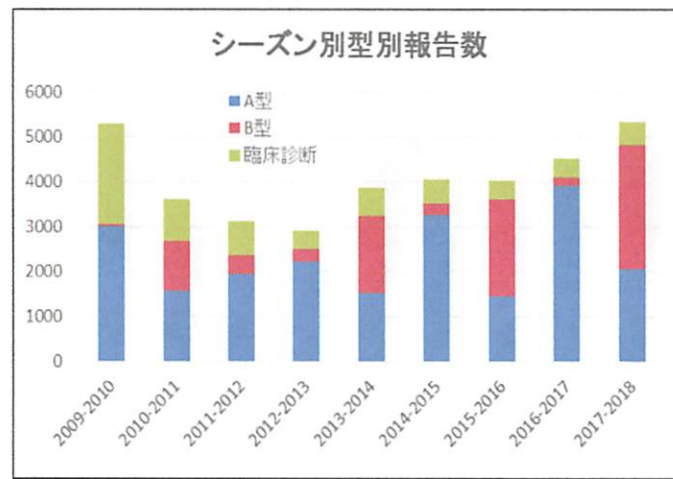
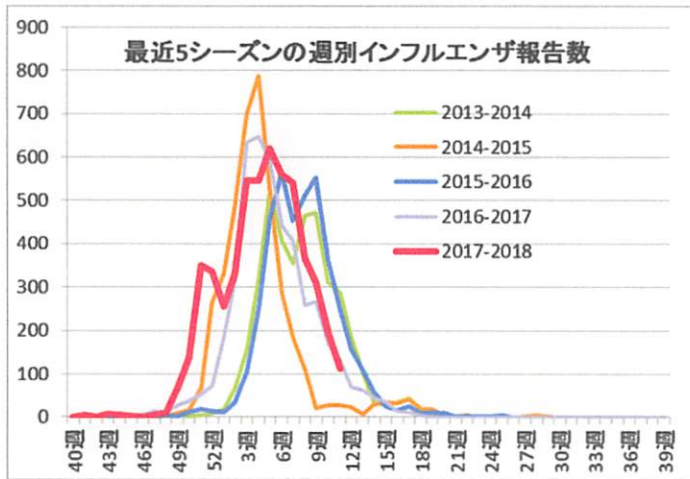
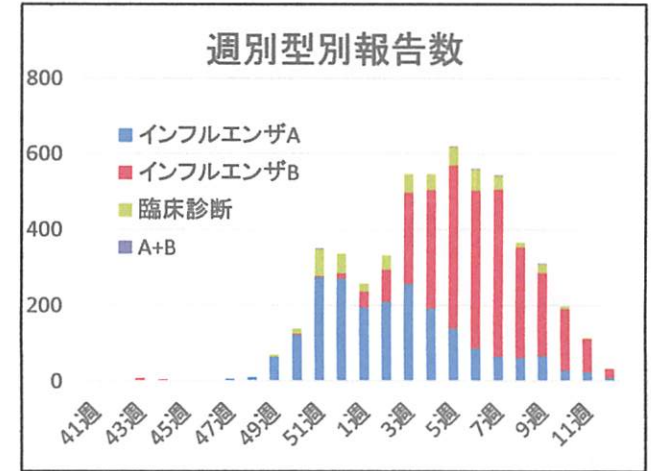
2018年3月22日

(3月21日までの報告です。)

	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	合計
インフルエンザA	3	0	1	0	0	0	5	9	63	121	273	268	192	208	254	189	138	86	64	60	66	28	23	8	2059
インフルエンザB	0	0	6	4	1	0	0	0	0	2	2	14	43	84	243	315	430	416	441	293	218	161	87	24	2784
臨床診断	0	0	0	0	0	0	0	0	5	15	73	54	20	39	49	41	50	56	36	13	25	7	3	1	487
A+B	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	5
総診断数	3	0	7	4	1	0	5	9	68	138	349	336	255	331	546	545	619	559	542	366	310	196	113	33	5335

3月21日までの報告のまとめです。20の医療機関より5335例の報告がありました。5週619例の報告がピークでした。その後緩やかに減少し、8週以後は急減して終息しつつあります。吉備医師会の報告数は5300を越え、多くの人がり患したこともあり、12週はさらに減少しています。今シーズンは、例年より早く、11月末よりインフルエンザA(AH1pdm)の流行で始まり、年が明けてインフルエンザB(山形系統)の流行が重なりました。AとB両方になり患する症例も多くでました。2013-2014シーズン以後、インフルエンザBは隔年で流行をしています。2015-2016シーズンのBは今シーズン流行した山形系統でした。この時り患した方は、家族内感染でもり患しないか軽症の印象でした。B型のウイルスはA型ウイルスと異なり、変異が少ないといわれており、抗体価が高く感染予防ができたのでしょうか。

教育委員会の出席停止者の報告数は3/16までで、2286例と在籍数の32.3%がり患しました。これは、2009-2010シーズンの3118例に次多く、これはA型とB型になり患した例が多かったためです。り患率が100%を越えた施設もありました。



	在籍数		
認定こども園	288	504	26.0%
幼稚園	876	1,422	35.9%
小学生	3966	289	33.0%
中学生	1938	71	24.7%
合計	7,068	2,286	32.3%

2018年2月27日まで

三宅内科小児科医院 三宅真砂子

(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。

<http://miyaiinsoja.webmedipr.jp/>)